

『浅草北部まちづくり協議会』経過資料

本資料は、平成17年12月の準備会からスタートした「浅草北部まちづくり協議会」の開催経過の概要資料です(19年2月まで11回開催)。

1. 名称：浅草北部まちづくり協議会

2. 組織：

(注：18年9月現在での名簿・所属です)

役職	氏名	所属団体等	
会長	吉田 富治	清川地区町会連合会会長	
	小山 隆太郎	清三町会長	
	山本 謙	吉野町会長	
	進藤 克	清川町会長	
会計監査	池田 富保	今三町会長	
	飯塚 スミ子	日本堤二丁目西町会長	
	長田 安久	アサヒ商店街振興組合代表理事	
	山本 博美	いろは会商店街振興組合代表理事	
	小林 正照	石浜小地区コミュニティ委員会運営委員長	
	第2部会長	田村 康博	東京都簡易宿泊業生活衛生同業組合城北支部組合長
		松村 健一	〃 理事
		末崎 勲	東都製靴工業協同組合理事長
		室星 健	財団法人城北労働・福祉センター所長 7月付けで異動
		佐藤 範男	浅草警察署山谷地区交番所長
	伊藤 博人	日本堤消防署警防課長	
	和泉 浩司	台東区議会議員	
	寺井 康芳	〃	
	水島 道德	〃	
	清水 恒一郎	〃	
	伊藤 征輝	〃	
	杉山 全良	〃	
第1部会長	長谷川 保一	住民代表	
	田中 好雄	〃	
	中村 貞充	〃	
会計	中川 幸雄	〃	
会計監査	當麻 悦子	〃	
	千葉 藤夫	〃	
	東城 裕子	〃	
	市野 恵子	〃	
顧問	深谷 隆司	衆議院議員	

3. 会 則

(名 称)

第一条 この会は、浅草北部まちづくり協議会(以下「協議会」という。)と称する。

(目 的)

第二条 この協議会は、浅草北部地区にふさわしい自主的なまちづくりを推進することを目的とする。

(協議事項)

第三条 協議会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項を協議する。

- (1)浅草北部地区の防災、住環境、景観等のまちづくりの推進に関する事項
- (2)区及び関係団体との連絡調整に関する事
- (3)その他協議会運営上必要と認める事項

(構 成)

第四条 次に掲げる者をもって協議会の構成員とする。

- (1)清川地区町会連合会、清川地区商店街、石浜小地区コミュニティ委員会、東京都簡易宿泊業生活衛生同業組合城北支部、東都製靴工業協同組合、財団法人城北労働・福祉センター、浅草警察署、日本堤消防署、清川地区選出台東区議会議員から選出された者。
- (2)その他、浅草北部地区のまちづくりに必要と認められ、協議会が承認した者。

(組 織)

第五条 協議会は、会長1名、副会長若干名、会計2名、会計監査2名を置く。

- 2 協議会の会長は、別表の団体の代表者から互選とし、副会長、会計及び会計監査は、前条の構成員の中から、会長が任命する。
- 3 会長は、会議を総理する。
- 4 副会長は会長を補佐し、会長に事故がある場合は、その職務を代理する。

(協議会の開催)

第六条 協議会は会長が必要に応じて招集する。

(部 会)

第七条 協議会にはその目的及び活動を推進するため、部会を設置することができる。

- 2 部会には、部会長、副部会長を置き、部会長又は副部会長は、必要に応じて活動状況等について協議会に報告しなければならない。
- 3 部会長は協議会の副会長をもってあてる。

(経 費)

協議会の運営に要する経費は、会費等をもってあてる。

- 2 会費の額は、別に定める。

(事務局)

第九条 協議会事務局は、協議会会長宅に置く。

(付 則)

この会則は、平成18年2月21日から施行する。

4. 経過

(協議会の議事録・まとめ資料より)

4.1 北部まちづくり(整備計画)の目標・将来像(どんなまちにしたいか)

あたたかいまち
ほっとするまち
住みよい街にしていきたい
若い人が住みたくなる魅力あるまちづくり
三世代が住みやすいまちづくり
何か核となるものを作って魅力ある街に
目を向けてくれるようなまちに。
北部を愛する心、大切に作る心を育てる

災害に強い(防災/減災)まち
安心・安全(犯罪、セキュリティ)なまち
高齢者に優しい街
生活圏(買い物の便利なまち)
職住接近
生きがい、働きがい
終の棲家

4.2 浅草北部地域の現状、問題点、および整備方針等について(抽出・洗い出し)

(1) 小包集中局跡地に求めたいもの(個別課題の検討 第7回 2006年10月 別紙資料参照 0610)

参考: 総務省から財務省に正式に所管が移るのは、今年の11月である郵政省(現総務省)のものだったが、平成14年に財務省の普通財産となった。今はゴミ収集車の車庫となっている。本来は買い取るために建物30億円、土地30億円必要だったが、土地の分だけでよくなった。ただし、「公共に資するもの」という理由でないと買えない。2年以内に買うのかどうか決めてくださいと、今ボールを投げられている。役所にはここをどう活用するのかという考えがない。地元の人がこの協議会で話し合ってきたことが今後生きてくると思う。利用方法をこの協議会で提案。

また、区は公共の目的で再開発するという事で交渉する。区の部課長20人ほどで小包跡地プロジェクトチームをつくっている。現在、基礎調査を外部委託している。(2007年3月までに報告)

- ・若い人に住んでもらいたいから、そのためには核となり魅力がある施設が必要である。
- ・人を寄せることだけでなく、今生活している人が住みやすいまちにすることが大事。
- ・ショッピングモールやアウトレットをという考えもあつて、いろは会、アサヒ会に聞いてみたところ、自分たちも出店したいとのことで反対はあまりなかった。**地元住民、商店へのヒアリング・アンケート調査を**
- ・重点的に小包跡地を整備すれば、周りも自然とよくなっていくと思う。
- ・北部では、革の町であることを活かして特色のある商店街、アウトレットなど。
- ・小包跡地の活用について、署名活動をしなくてもよいので

は、**公開シンポジウムの開催を**

- ・今は民間からのお金を使えるような法律ができています。台東区にもそんなにお金はない。民間活力を利用する。**予算の獲得>民間資金・公債・・・**
- ・生産基地
- ・流通基地 配送センター
- ・学校 職人・後継者養成、デザイナー養成、経営指南、講習
- ・販売 催事、道の駅、実演、作成体験
- ・認定団体 資格付与、品質管理・標準価格設定

(2) 交通網の整備問題 (個別課題の検討第8回まとめ 2006年11月実施) 別紙資料参照 0611

- 地下鉄の延伸 都電荒川線延伸(路面電車)等 バス路線の強化
 モノレール 水運 その他

・旅館/ホテルの宿泊者の69%はJR南千住駅から、23%はメトロ南千住駅から来ている。大部分が南

千住から来ているということになる。ただ、南千住から歩いてくるのに道が分かりづらい。

・利用客が少ないから北部には地下鉄が引けないという話を聞いた。

(地下鉄は1kmあたり300億円かかる。1kmあたり2万人の乗客があれば採算が取れる。)

・北部から近い駅は南千住か三ノ輪、浅草は遠い。利便性の面から言うと、南千住や三ノ輪のことを議論に入れたいといけな。

・いずれにせよ交通基盤を強化したいというのが皆さん共通の考えである。メインの交通手段としてはやはり線路がほしいというのがかなり強いと思われる。

・観光を考えたときに、浅草を含めて観光客が来や

すような交通整備が必要である。生活の利便性と観光も含めて全体的な交通網整備が大切である。

自転車の走行路線も確保してほしい。パーキングメーターがあると駐車車両のため自転車が走りにくい。自転車の走行車線を作ってもらいたい。川崎駅前を参考にしてみても良いと思われる。

・法律上、本来自転車は歩道を走れない。車道に自転車の通行帯を作らないといけな。

・道路の位置付けも変わってきている。防災面もあるが、歩く人や自転車にやさしい道路へという流れがある。北部では自転車も新しい交通体系として考えていきたいという議論していくことも必要である。

(3) 観光開発 (まちおこしの観点から) (個別課題の検討第9回まとめ 2006年12月実施) 資料 200612 参照

・地域資源の活用: 伝統を活かしていくまちづくり、観光部会を発足(2007年1月より)

・街の活性化のためには観光が重要である。今、外国人のお土産ナンバーワンはまねきねこである。

・浅草北部で“まねき猫”で頑張る。。

・観光の中でひとつの要素としてまねき猫をどう使うかという考えでいくべきである。

・新タワーには多くの人があるだろう。回遊性を良くしてほしい。

・拠点のカード参考資料「根岸界限ぶらりマップ」

・まずは観光開発の種地になるようなものを拾上げ。

・神社・仏閣もあるしもの作りの拠点もある。

・他にグルメという視点からの観光開発も考えられる。
(別紙 AN09-01 観光部会資料)

(4) 安全・安心なまちづくり (個別課題の検討第10回まとめ 2007年1月実施) 別紙資料 0701 参照

防災(減災)/地震、風水害、河川氾濫、火災、及び 防犯: 犯罪、交通事故等について

(バリアフリー施設、環境汚染)

防災

・阪神大震災では建物倒壊による圧死が多かった。区で補助金を出せないのか検討してほしい。広報をしてほしい。

・台東区内で清川地区は危ないところになっている。

・消防団に若い人を入れたい。

・実際に器具を使えるようにしたほうがよい。(AED、ジャッキの使い方を教えていったほうがよい。

防災訓練を年に1回やれば良いという感じになっている。

限られた人が使えるのではなく、みんなが使えるようになるとよい。

・救急車の出動件数は減っているが、本当に必要

な人が使えるように適正利用を呼びかけている。

・都の防災都市づくり策定計画がある。火災が起きたときにどう延焼をくいとめるか。

防犯

・凶悪犯罪は減少している。戦後復興の頃に比べると労務者は半減した。玉姫公園やいろは会商店街に路上生活者は多いときで300人、寒くなると減ってくるので180人くらいである。山谷地区交番は特殊な場所で、私服警官も配置している。ホームレス対策として、路上で寝ている人に声かけしている。また、外国人犯罪者に対しても、路上で頻繁に声かけをしたり、パスポートチェックをしたので犯罪は減少した。

・ひったくりは台東区全体では横ばい、北部地域で

は減少している。

(5) 地域産業・ものづくり (個別課題の検討第11回 2007年2月実施)

皮革産業の再生、靴のブランド化へ

- ・靴業界は全盛期の全盛期の4分の1。海外に依存しないとやっていけない状態である。この北部地区を改善していくためには大きな起爆剤が必要である。
- ・製靴業界がこれ以上よくなるかという、そうは言えない状態である。
- ・皮革産業の衰退は台東区の産業の衰退につながる。デパートではデパートというだけで品質の保障を感じられるため高い靴も売れる。個人では難しい。
- ・靴でも手作りのものについては需要がある。オーダーメイドの靴を、インターネットなど活用して売り出したらどうか。
- ・我々の製靴業界も活性化に向けて動いている。ただ、人手がいない。製靴関連業の平均年齢は67歳くらいになっている。学校の跡地などに技術者を置いて、そこで子育てが終わった方々などが内職をして生活収入を上げ、街の活性化に役立てる方法はないかと考えている。
- ・靴業界に興味を持って学校に入る若者もいる。若い人が入らないと活性化はしない。エスペランサなどの靴の学校があるが、1・2年しか技術を教えない。あと2年くらいやればものになるのにもっていない。若い人に経験をもっと積ませたい。
- ・浅草ブランドを立ち上げてはどうか。<—> 自社ブランドとしてやってはいるが流行らないのが現状。
- ・1つの会社ではなくて、地域ブランドを立ち上げる必要がある。
- ・(関連:雇用創生、皮革工業の振興)
- ・靴工場は景気が悪く、劣悪な環境で働いている。皮革産業をまちおこしの目玉にするため、小さい工場をビルに集約したらどうか。作る過程を見学できるようにガラス張りにするとか。
- ・皮革産業の集約施設、流通基地を小包集中局跡地に作ったらどうか。
- ・皮革産業資料館をもっと活用したらどうか。
- ・大量生産をしていた反省から、手作りでよいものを作りたいという思いが靴業界でもあるようだ。

- ・余った皮を女性のアクセサリにするとか、体験教室を開くなどしたらどうか。
- ・皮革産業をただ集約するだけではなく、受注できる体制を整えることは必要。靴屋で伸びたところはブランドの下請けをやっているの、デザイナーに食い込むことも方法の一つである。
- ・中国で作る安い靴との差別化を図る必要がある。「芸術品」的なものづくり、あるいは、お年寄りに優しい靴など。
- ・着物と草履のように、靴とバックはセットで売ったほうがよい。
- ・人目がつくところにアンテナショップを作ったらどうか。
- ・小包跡地などで、芸能人の履く靴のショールーム、芸能人の足型を見せる。
- ・いろは商店街に若手デザイナー育成塾をつくる。
- ・靴のめぐみ市だけでなく、北部で小売ももったほうがよい。
- ・旅館に来る外国人に、皮革産業を見てもらおう工夫をしたほうがよい。

まとめ

北部の地場産業としては、第1に皮革産業、そして商店街、簡易宿泊所の3つがあげられる。今日は靴業界の人が出席していないので、またあらためてその方たちの意見を聞いて考えたい。

(6)その他の個別課題等

簡易旅館／簡易宿舎所〔注2〕：旅館街の新しい展開を：外国人旅行者やサラリーマン

簡易宿泊業組合で作ったマップの紹介(2007年2月)

- ・インターネットにより外国人、日本人ビジネスマン客が増えている。
- ・85%くらいの客は南千住駅から来るので、駅の近くに地図(旅館への案内板)を作って欲しい。・旅館/ホテルの宿泊者の69%はJR南千住駅から、23%はメトロ南千住駅から来ている。大部分が南千住から来ているということになる。ただ、南千住から歩いてくるのに道が分かりづらい。

南千住駅には東京都の補助を受けて、荒川区が作ってくれることになった。三ノ輪駅にも台東区が作って欲しい。

- ・簡易旅館については多岐にわたってくる。山谷の簡易旅館はほとんどが男性用に作られている。今後は女性用も出てくるだろう。

〔注2〕：(現在160件以上/ドヤ130件弱、後継ぎのないところにNPOが入り込んで、それに丸投げで何も対応をとらない。そういうところだからホームレスを送り込まれてしまう。NPOの規制が必要)。日雇い労働者(平均年齢は63歳。どんどん少なくなっていく中で、残る資源をどのように活用していくか、現状の福祉だけというのではなくて、結核の問題)。この地域には5000人弱が半永住しており、そのうち生活保護を受けている人は約2500人いる。5000人みんなをいきなりどこかへ持っていくわけにはいかない。高齢化が進んでいるので、徐々に人数は減っている。簡易旅館があるから、この地域は大阪の釜ヶ崎のようにならずにすんでいる。しかし高齢化がすすんでおり、簡易旅館も時代とともに変わらざるをえなくなっている。いきなり山谷を変えるといっても無理。周りから徐々に変えていかないと。

山谷問題 :路上生活者・ホームレス問題、川沿いのブルーテントの問題

福祉 :子育て支援センターが旧田中小にできた。生活基盤

住宅問題 :

高齢化対策 :老人用施設、公共施設

清川出張所の建替えの検討:

今戸の駐車場跡地利用:

5. 今後の進め方・スケジュール等について

5.1 結成の経緯(背景)

浅草北部まちづくり協議会は、**行政呼びかけ型**※まちづくり協議会である。

区としては、浅草北部は防災面等で課題が多い。具体的な整備計画を作ってから動き出したいと考えている。来年度1年間かけて地元の方に課題の整理と方向性を取りまとめていただき、区がそれを受け、庁内の関係部署に振り分けてその後の計画について議論していきたい。平成19年度には具体的な整備計画を作りたい。(第1回議事録より 大江課長)

(基本構想、長期総合計画策定、行政計画、都市マス

→協働(パートナーシップ)、住民参加、区民主体のまちづくりを ..)

※行政呼びかけ型まちづくり協議会のほかに、住民発意型まちづくり協議会があるが、事例が少ない。まちづくり協議会を結成してまちのありかたを議論しようというよりも、高層マンションや清掃工場など迷惑施設の建設反対や、公共サービスの誘致運動といった個別の問題をめぐる形であられ、消えることが多い。

平成17年12月 準備会議の開催。18年2月からスタート 現在11回開催。

早急に地域で対応すべき問題は！

□その他：◇北部小包跡地利用に関する利活用・整備計画(2年以内)

5.2 会議の進め方等

(1) 議事進行：当日の本議題に入る前に、「前回の経過・議事録の確認」を行う。

(2) メンバー：

- ・欠席者が多いため、19年4月以降については、新メンバー等について再検討を行う。
- ・だんだん協議会への出席者が減っている。会の代表者は忙しいから、誰か別の人を推薦してもらった方がよい。
- ・最終的な結論を出すときに、代表者には来てもらえばよいのでは。
- ・きちんと参加してくれる熱心な人にメンバーになってもらったほうがよい。
- ・大江課長：今後、区議会議員の方々には参与として、オブザーバーのような立場で参加していただこうと考えている。

(3) 運営等：

- ・メンバーが意見を述べやすいような雰囲気、進め方等を考える。
- ・事務局との協力、協働推進(行政指導型における行政側の役割分担)
- ・コンサル・専門家などによる会議の運営・とりまとめを依頼
- ・北部に住んでいる一般の人からの意見も聞いたほうがよい。このような協議会という場には出て来難いようである。もう少し気軽に参加できるような場を設ける必要があるかもしれない。
- ・これからの進め方について、今までまとめたものから分科会を立ち上げ、ものによってはメンバーを増やしてもよいと思う。
- ・継続してこられる人がいたら、もっと誘うべき。 などを検討する。
- ・4月以降の協議会の進め方について
メンバー再編成、分科会の立ち上げ、コンサル(専門家)派遣の検討など

5.3 スケジュール案(マイルストーン)

作業内容	担当	平成 18(2006)年度		平成 19(2007)年度				
		2月	12月	3月	4月	3月		
協議会		①	② ③ ④ ⑤	⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪	⑫	⑬ ⑭ ⑮ ⑯	⑰	
役員の選出・会則 (メンバーの交代・新規加入)		●						
現状と課題の抽出・洗出し (個別課題・テーマ別)		—	—					
現状と課題の 整理 (個別課題・テーマ別)	<>事務局				—			
まちづくりの目標・将来像の 確認 (どんなまちにしたいか)		—	—	—	—			
まちづくりの目標・将来像の 再確認					—			
>平成19年度?								
具体的な整備計画内容の 整理 ・中間まとめ作成	<>事務局					—		
(行政担当者との意見交換)	<>事務局					—		
地元住民への公開シンポジウムの開催	<>事務局						
具体的な整備計画の 作成 ・提案	<>事務局						— ↑↓ —	
各部会の設置・運営 □観光部会 □ □							— — — — — →	

=====**【議事録 資料】**=====

□ 浅草北部地区まちづくり協議会準備会 議事録

日時:平成17年12月27日(火) 18:00～

場所 産業研修センター 研修室

【出席者】

町会長: 吉田会長 小山会長 山本会長 池田会長 飯塚会長

組合 : 田村組合長 末崎理事長

コミュニティ: 小林委員長

城北 : 室星所長 関口課長

山谷交番: 米本氏(代理出席)

消防 : 伊藤警防課長 千葉所長(今戸出張所)

区議 : 和泉区議 寺井区議 水島区議 清水区議 伊藤区議

杉山区議

区民 : 長谷川氏 田中氏 中村氏 中川氏 千葉氏

・**樞尾部長あいさつ**

・**自己紹介**

・**議事**

大江課長: 資料2は清川地区町連エリアを示している。広く、課題も多い地区であるが、協議会をつくってはどうかというのが提案である。

資料3の会則はあくまでたたき台だが、参考までに。第3条に協議会が具体的に何をするのかを記載している。

浅草北部地区は非常に課題の多いところであり、庁内でも検討会を設けている。この協議会で出た意見や課題を、庁内の各担当部署に引継ぎ、詳しい議論をしていただくという方向で考えている。この協議会は、この地区の将来像を考える場にしたいと思う。地域が主体で、行政もそれに協力していく協議会になるといいと思う。

室星所長: 今年3月に、吉田会長や田村組合長に協力いただき、地域づくりフォーラムをつくり議論してきた。それがこの協議会と重なるところがあり、この協議会には非常に期待している。山谷は労働人口も減り、平均年齢も63歳を超えている。全体の労働者が減ってきて、旅館の将来を考えていくことが今の一番大きな課題となっている。これから福祉のまちとなっていくのか、それともビジネスのまちになるのか。この協議会で、あるべき将来像を示してもらえるといいと思う。

大江課長: とりあえず会長を決めていただくといいと思う。協議会

を作ることは賛成ということでしょうか。——拍手で賛成。

長谷川氏: 今日は提案と資料を持ち帰って、次回(案)の字を取れるようにという解釈でいいか。

大江課長: とりあえず今日は会長、役所との取次ぎをしていただく世話人さんだけでも決めていただきたい。

寺井区議: 今日は時間がないので、行政でまずたたき台を出してほしい。例えば、玉姫公園や北部小包跡地利用など。そのたたき台をもとに、それについてどうしようかという議論をしていくほうがいいと思うが。

大江課長: 行政から皆さんに議論をしていただきたいと思っているものはいくつかあるのだが。

清水区議: 寺井区議の言ったこともあるが、まず今はとりあえず会長を決めたほうがいいと思う。

小山会長: 寺井区議の言ったことは部会の話になってからでいいと思う。

田村組合長: とりあえず会長を決めていくべき。吉田会長がいいと思うかどうか。——拍手で賛成。

大江課長: 整理するが、協議会名は「浅草北部地区まちづくり協議会」でいいか。——賛成。

メンバーは名簿に載っているメンバーでいいか。

——賛成。

会長は吉田会長でいいか。——賛成。

以上

第1回浅草北部まちづくり協議会

日時 平成18年2月21日(火)19:00～21:00

場所 産業研修センター 大教室

・大江課長挨拶

・吉田会長挨拶

・大江課長より配布資料の説明

議事

・大江課長

まず会則を決めたい。まだ(案)と書いてあるが、この会則は他の協議会でもこのようなかたちをとっている。北部地区のことも入れていきたいので、議論していただいて直すところがあれば言っていたきたい。

資料の最後に、あくまで参考ということで事務局案をつけてある。まずは具体的な議論ができるものから始めてい

たほうがよいと思うので、部会案として皆さんが分かりやすく、具体的にしやすいものを挙げた。

議論をするにあたり、10人位が最適だと思うので3つの部会に分けた。グループ分けをするにあたり環境・再開発・防災というふうに分けてはどうだろうか。

・寺井区議

部会の分け方はいいと思う。ただこれはあくまでもたたき台である。まずは部会のメンバーを決めていただき、各部会員の皆様にいろいろご議論していただきご意見を出していただく。その結果として、部会としての大原則は守るのだが小さな項目の変化はありうる。このたたき台を基にして委員の皆様にご議論いただき、よりよいものを作り上げていくことが大切である。

・和泉区議

3・4ヵ月後にこのようなかたちでやるのはいいと思うが、最初の3ヶ月くらいはテーマを決めないほうがいい。行政からでは気付かないようなことが出てきて、それをプラスしてから部会に分けてもいいのでは。

役員構成であるが、それぞれの部会に副会長がいたほうがいい。部会長が副会長になるのであれば、副会長は2名と決めずに部会の数に合わせて、若干名としておくなど。

・中川氏

マスタープランの中で北部のまちづくりのことは話し合われてきたと思うが、それを参考にしていってほしい。マスタープランをベースにすることで大きなイメージが出てくる。その中で北部が抱える、防災・交通・福祉・山谷問題など、出てきた問題について話し合うほうがいい。マスタープランをベースに共通認識をもった上でその流れができるといい。

再開発というのはテーマとしてはそぐわないと思う。

まずは課題を出していかないといけない。

・清水区議

これらが全てのテーマではない。一つの参考というかたちでこういうものがあるという認識でよいのでは。

・水島区議

とりあえず3つの部会に分かれるのだが、全体の話もしなくてはならない。最初の数ヶ月は3つに分かれても全体の話をしていくべき。全体の話をしていく中で新しく問題が出て、新しい提案なども出てくる。

まず3つに分かれて全体の話をする。そのあと全体で集まった

ときにそれぞれの問題について煮詰めていけばいいと思う。

・池田氏 北部地区の問題は多岐にわたっている。まずは部会に分かれて話し合い挙げてきたものを煮詰めていくというほうが時間的に早いと思う。大勢で議論するには時間がかかる。

・小林氏 3つに分けてやらないと話もまとまらない。部会の名前もとりあえずこれでいいと思う。

・田中氏 来年度の1年で何らかの方針を出すとなると難しいのでは。時間軸をどこに置かかが問題。基本構想、長期計画、マスタープラン等の意向も踏まえ、いろいろな問題を挙げてから動くのか、それともとりあえず動くのか、どちらか。

・大江課長 **区としては、北部地区は防災面等で課題が多い。具体的な整備計画を作ってから動き出したいと考えている。来年度1年間かけて地元の方に課題の整理と方向性を取りまとめていただき、区がそれを受け、庁内の関係部署に振り分けてその後の計画について議論していきたい。平成19年度には具体的な整備計画を作りたい。**

・寺井区議 基本構想、長期計画、マスタープラン等との整合性はつけていくべき。その中から行政がピックアップしてこちらに投げかけていただき、公共的な部分については行政がやっていくが、それを我々が検討していく。やはり行政側でたたき台を作ってもらわないと話が進まない。そのたたき台を基に議論するのがこの会である。

・長谷川氏 議論が出ているが大きな違いはない。方向性を出すのに1年間はかかるでしょうということで分かったと思う。

・大江課長 議論をまとめると、部会は作って運営していく。どういふ部会を作っていくかについては問題が明らかになってきた時に再度考えていく。

・寺井区議 部会を分ける際に、うまくバランスをとらなければならぬ。

・大江課長

協議会の会則として、副会長と部会長の人数を若干名という表現に変更する。基本的には副会長と部会長は同じ人をお願いしたい。

協議会の名称であるが、浅草北部地区まちづくり協議会と私どもは呼んでいるがどうか。

・田中氏 地区がいいのか地域がいいのか、それともまた別の言葉がいいのか。

・大江課長

地区か地域かというのと浅草をとるかどちらか。

では浅草北部まちづくり協議会ということでしょうか。――→拍手で賛成。

次に役員。副会長だが今日一応3名ということで決めたい。ただそのためには 部会長も一緒に決める必要がある。

・池田氏 部会は議会とか町会とかバランスよく分けてほしい。

・中川氏 前回山谷の話の時に、地域によって話がずれてしまうのではないかと だった。そのような話があったので、まず地域を区切って話をしてもよいのでは。

・小林氏 もともと狭い地域のことであるので分けるのは難しいと思う。このような意見があるということを踏まえて事務局に一任でよいのではないかと。

・大江課長 地域というよりはグループの性格ごとに分けさせていただく。部会長については我々で3つのグループに分けたあと互選していただくということでよいかと。

・寺井区議 グループ分けは事務局で話し合っ、最終的には会長に決めていただくという ことでよいのでは。会計についても会長にご推薦していただくという ことでよいのでは。

・大江課長 では監査を2名、どなたか。

・寺井区議 池田先生と當麻氏がよいのでは。

・大江課長

では監査はこのお二人でよろしいかと。――→拍手で賛成。

会計については会長とも相談してまた次回にということで。グループ分けについては事務局で考えて会長に一任ということ

で。グループを分けた後については、それぞれ別の日にやるのか 同日日にやるのか。

・長谷川氏 それぞれの部会の回数がばらばらでも困るのでおおよその枠は作ってほしい。

・和泉区議

警察、消防については部会に入っただくよりも全体会に出っただくければ よいのでは。部会で専門知識が必要になったときに部会に出っただくという かたちでどうか。例えば部会で防災についての知識が必要になったら消防に出っただくとか。

・吉田会長 国会議員の先生も協議会に入れたいと考えている。

・寺井区議 住民である深谷先生なら問題はない。

・吉田会長 では顧問に深谷先生ということをお願いしたい。

・田村氏 構成員を増やすことが可能なら旅館組合で松村氏を一人増やしていただきたいのだからどうか。――→異議なし。

・大江課長

必要に応じて会則は変更していこうと考えている。

次回だが、記念講演として台東区の都市計画審議会委員をしていただいている 服部銈二郎先生に、この地区の現状と方向性について広い視野から講演をお願いしたいがどうか。――→賛成。

広く区民の方にも聞いていただきたいので各町会で回覧をまわしていただきたい。

浅草北部まちづくり協議会 2 議事録

平成 18 年 3 月 29 日 20:00～21:00

リバーサイドスポーツセンター会議室

◎ 協議会会則について

・会則の変更点について説明、了承。

◎ 役員の選出について

・会長は吉田会長。

・会計監査は池田会長と當麻氏。

・会計は中川氏と長田氏。(長田氏については欠席のため、後ほど事務局で確認する。)

・顧問に深谷衆議院議員。

◎ 部会(案)について

・2 部会に分けて話し合う。部会は増えることもありうる。

・部会で話し合うなかでテーマを決めていけばよい。

・部会は夜に開催するほうがよいと思われる。

・次回からは部会ごとに活動する。

・次回の第 1 回部会の日時等については区で調整する。その後のことについては部会 ごとに決める。

3 回 浅草北部まちづくり協議会 部会① 議事録

長谷川氏: 今日是一人ひとりの率直な意見を言っただくきたい。

伊藤区議: 区内のいたるところで再開発をおこなっているが、この地域は取り残されているような感じがする。簡易旅館のことも含め、皆さんの知恵をお借りし、 いいまちづくりがで

きるようにしたい。

清水区議： 路上生活者が目立つ。ホームレス対策、安全面での対策、結核の問題など 多くの課題はある。全体的に見ると交通網の整備が大切である。まちづくり 全体として考えていけるといい。

和泉区議： 交通インフラをどうにかしたい。綾瀬付近は交通インフラがよくなってから変わった。再開発でこのまちに目を向けてくれるようなまちにしていきたい。

中川氏： 高齢化が進んでいる。地域の活性化のためには人が多いことが大切。バリアフリー施設も必要になってきている。自分たちで生活していく中で高齢化を 包含できるようなまちにしていきたい。

室星所長： 私どもは日雇い労働者対策を目的として活動している。その対策の中で、労働者自体が少なくなってきた。そういったなかで簡易宿舎の問題や結核の問題が出てきた。そういった問題に対処していくという中で、まちづくりの 視点を入れて、地域フォーラムで議論している。それをもっと成熟させていきたい。

今、労働者の平均年齢は 63 歳である。日雇い労働者はどんどん少なくなっていくものと思われるが、残る資源をどのように活用していくか、現状の福祉だけというのではなくて、観光面や交通機関の問題などとあわせて資源をうまく活用していければこのまちはすばらしいまちになると思っている。

工藤氏： 北部地域を見ていると、2 つの方向性がある。一つは伝統を活かしていくまちづくり。もう一つは山谷のような特殊な地域をいかにして普通のまちにしていこうかということ。普通のまちにあっていいものがない。だから人が集まらないというものもある。いかに普通のまちにしていこうかというのが課題である。

室星所長： いかに山野対策を収束させていくかというのが問題である。その中でまちづくりをしていく。

佐藤所長： 山谷のイメージを悪くしているのはホームレス。まずはホームレス対策をして、それから他のことをやっていけばよいのではないか。

松村氏： 交通のインフラが問題である。

外国人に対して皆さん偏見を持っている。外国人はこの山谷に対して何の 反応も持っていない。外国人は旅行というよりはある程度の期間仕事で来ている

人が多い。

現在 160 件以上の簡易宿泊所が残っているが、小さいところや木造の古い ところなどは後継ぎもなく、そのうちなくなっていく。そういうところに NPO が入り込んできている。そちらのほうが問題なのにそれを簡易宿泊所のせいになされている。

ホームレスを無くさない限りきれいな街にはならぬのだが、新宿にいた ホームレスも台東区が受け入れている。このような悪循環もある。

長谷川氏： 皆さんの思い入れはかなり重なり合っている。

隅田川のテントは若干減ってきている。

この部会であるが、まず1、2回は、皆さんが自由に討議をして、そのあと分科会に分けるなり考えましょうということになっていったと思う。一通り ご意見を伺ったが、もう少し論議を深めて考えていきたい。

吉田会長： 昔は貧しかったがあたたかい街であった。今の街はいい街とはいえない。

長谷川氏： おおまかに言うと、ホームレスの問題、簡易宿泊所の客層の問題、交通網の整備、高齢化への対応策、地域資源の活用、あたりまえの街への転換、などがあつた。

中川氏： 防犯・防災、水害も加えてほしい。

樫尾部長： ホームレス、交通インフラなど問題は多い。防犯・防災も他の部署と連携してやっていきたい。

吉田会長： ホームレス発生の原因は？

室星所長： 私どもはホームレスと日雇い労働者・路上で生活しながら働いている 人を厳密に分けて考えている。働く気がなく依存型のホームレスというのは 数百人である。こういう人たちを誘導していくのも一つの仕事であるが、それと同時に、簡易宿舎に住んでいて生活保護を受けている人たちが、路上 生活者に転落しないようにしている。今、路上生活者は30～40%減って きている。

日雇い労働者がいなくなったときの簡易宿舎の将来像はどうなっていくのか。交通インフラを含め共通する問題を違う角度から議論していったらどうだろうか。

ホームレスがなぜいるかという、日雇い労働者から転落したり、他区から 流入してきたりしているから。自立心がなくなっているのも問題である。その要因として炊き出しが多いというのも一つの要因とな

っている。今は治安が比較的いいのでまちづくりをするチャンスである。

中川氏：生活保護を受けるか転落するかのどっちかになっている。炊き出しも、そこでやっている以上、ホームレスは集まってくる。集まってきて分散して定着 という形ができていく。収入の低い人たちにとって簡易宿泊所の需要は高まる。問題はそこからみ出た人たちである。それによって犯罪が多くなる可能性もある。

松村氏：NPOの問題であるが、後継ぎのないところにNPOが入り込んで、それに丸投げで何も対応をとらない。そういうところだからホームレスを送り込まれてしまう。NPOの規制が必要かもしれない。我々の業界がどうこうではない。

長谷川氏：これだけは是非伝えておきたいということは何？

和泉区議：NPOも含めて、簡易宿舎は何軒くらいあるのか？

松村氏：何軒あるかは把握できていないが、増えてはいない。

吉田会長：ホームレスの話をしてまちづくりの話はできない。

中川氏：多くの人を受け入れて活性化を図っていくのであれば交通面の問題は避けて通れない。

和泉区議：交通インフラを改善するのは当然のこと。集客施設を誘致して、そこに交通インフラを整備する。台東区で持っている土地の活用も考えられる。

中川氏：再開発でもいいが、地域の流れをくみ上げていったほうがよい。高齢化対策は地域でその姿勢を作っていくかといけな

清水区議：行政として、防犯、安全、ホームレス等の様々な問題に対してどうしていくか、テーマを持って考えていくべき。

長谷川氏：国勢調査等のデータから許される範囲内で分析していくのも一つの方法 である。

今回こういったかたちで話し合いをするのは始めてである。

ご意見を率直に出していただいて共有できる場所は共有し、違う部分については論議を進めるということで、まずは結論を求めずに議論していただいた。今回意見として、ホームレス対策、簡易宿泊所の客層の劣化に対する対応・リニューアル問題、交通網の整備、高齢化問題、地域資源の活用、防犯防災対策、再開発にあたっての種地利用などが出た。次回以降これらの絞込みを行っていききたい。

第4回浅草北部まちづくり協議会 議事録

日時：平成18年5月25日(木) 午後7時より

場所：台東リバーサイドスポーツセンター 3階会議室

(出席者)

・部会①吉田会長、末崎氏、清水区議、伊藤区議、長谷川氏、中川氏、千葉氏、浅草警察

・部会②山本(謙)氏、小林氏、田村氏、寺井区議、水島区議、杉山区議、田中氏、石塚氏(深谷議員秘書)

第4回浅草北部まちづくり協議会 部会④ 議事録

末崎氏：この協議会には区議会議員の先生が多い。先生方は色々な区民の意見を 持っているのをそれをうまく活かしていけばいいのではないかと。

長谷川氏：まちづくりの基本は住んでいる一人ひとりの声である。長いスパンで考えていきたいと思う。前は、交通政策、山谷の宿泊施設の対策、ホームレス問題など、自由な論議をしていただいた。

中川氏：住民の立場として、交通が不便である。また、川沿いのブルーテントの問題もあり、イメージが悪い。

千葉氏：交通インフラが一番重要である。現在の北部地区で何ができるのかを考えていきたい。皆ホームレスの話ばかりするが、ホームレスはどこかへ追いやってまた戻ってくる。

南千住が発展したのは何もなかったからであって、浅草北部はある程度完成された街であるため、大きな起爆剤が必要である。起爆剤としては小包跡地をどのように有効活用するかが一番重要である。

人の活性化を考えると、隅田川沿いにマンションも増え、北部地区の人口 増加も望める。ただ、産業界を考えると靴業界は全盛期に比べ半分は壊滅状態である。

末崎氏：実際、靴業界は全盛期の4分の1になっている。職人の平均年齢も60歳を超えた。海外に依存しないとやっていけない状態である。この北部地区を改善していくためには大きな起爆剤が必要である。

製靴業界がこれ以上よくなるかという、そうは言えない状態である。若い人がいない。

伊藤区議：台東区は23区で一番狭く、空き地がないため再開発がしにくい。また、山谷問題については、簡易旅館の協力

が必要。浅草北部は大変難しい地域である。できる事からやっていくべきである。

浅草警察： 200軒近くの簡易宿泊所があるが、俗にドヤと呼ばれるのは130軒弱 あり。ホームレスをどけても、根本的な解決にはならない。都心であれば、 ホームレスに公園に行くように言えるが、こっちでそのように誘導するとそのまま居ついてしまう。

簡易宿泊所に住んでいる方々も高齢化していて、宿泊所内で亡くなる方も いる。そういう方々は生活保護を受けている。一方、路上にいる方々は福祉を 受けていないのになぜか手にはお酒などを持っている。どこからそのお金が 出てくるのか。

ホームレス対策は難しい。できる事から、小さなことから始めていきたい。

伊藤区議： ホームレス自立支援法で、東京都と23区が共同してブルーテントを排除していこうとしている。台東区内でも、以前は1000人程いたホームレスも 現在では700人を切っている。ただ、外にいるのがいいんだというホームレスも1割ほどいる。

千葉氏： 今の簡易宿舎はアパート状態。簡易宿舎の中にいる方々は生活保護のなか から宿泊費を支払っている。そう考えたときにやはり問題なのは路上生活者で ある。路上生活者は好んで路上にいるようなので何を言っても無駄である。住居に入れてもまた路上に戻ってきてしまう。

清水区議： 炊き出しが週に3回ほどあるため、働かなくても食べていける状況にある。

外から来る人にとっては、人が路上で寝ていたりしてイメージがよくない。

現実はどうなのか、将来はどうしたいのか、その両方を平行してやっていく べきである。

中川氏： 今後バリアフリーの問題は避けて通れない。今、老人ホームは高いので、 自分のところが老人ホームの代わりにならなければならない。老人用施設や 公共施設が近くにできればいいと思う。

長谷川氏： 隅田川沿いのホームレスの数が3分の1になったそうである。目に見えて 一挙にいなくなるわけではないが、少しずつ変化している。

千葉氏： 荒川区ではテントができないようにしているが、台東区で

はどうなのか。

清水区議： 山谷の文化・伝統で今まで手を付けてこなかったという原因はあるかもしれない。

千葉氏： 小包跡地にアウトレットモールのような、靴の総合卸売り販売センターを 作ったとしたら人は来ると思うか。

末崎氏： ちょっと難しいと思う。

靴業界に興味を持って学校に入る若者もいるが、学校自体が1年か2年で 卒業となる。若い人に経験をもっと積ませたい。若い人が入らないと活性化はしない。

中川氏： 靴がなぜ起爆剤にならないのかは値段がないからである。ブランドが確立していない。靴でも手作りのものについては需要がある。

以前、道の駅のようなものを作って、地場産業が集中するものを作ってはどうかと提案した。食べ物もおいしいお店が多くある。そういうものをベースにして人が集まってくるルート作りをしたらいいと思う。

ただ、北部はやはり住居地域であるので、これから先は住みよい街にしていきたい。そのためにはブルーテントを減らしていきたい。スーパー堤防も案としてあるが、既存建物との関係で難しい部分がある。

大江課長： 浅草北部については、まちづくり方針を近々決定する予定である。東京都の考えでは川幅は今以上狭くできない。

中川氏： 確かに制約はあるが、できない事ではない。やり方次第である。都や区に 押し付けるのではなく自分達でやらないといけない。

長谷川氏： 最初の部分のおさらいとして、区はバックアップはするが基本的には皆さん方が考えて実施していくというのが基本のスタンスであったと思う。あくまでも考える主体は皆さん方である。

今回は1人3分くらい自分の意見を述べる場をもうけたいと思う。

清水区議： 皆さん色々な思いがある。この協議会ではそれを全て出して欲しい。

第4回浅草北部まちづくり協議会 部会② 議事録

田村氏： 前回の内容は議事録でご確認ください。それぞれ意見を出すだけではまとまらないので、徐々に的を絞っていききたい。情報を一番多くもっている区議会議員さん

に、まずは言っていたのがよいと思う。

寺井区議：手をつけやすい場所からやっていくのがよいと思う。公共用地である小包跡地は広大な再開発が可能だから、集客力を持った施設を建てられるとよい。

山本(謙)氏：若い人が住みたくなる魅力あるまちづくりをしたい。小さい簡易旅館は集まって株式会社にしていけばよいのでは。

田村氏：私は簡易旅館の組合長をしているので、お答えする。簡易旅館は現在 160 軒ほどあり、それぞれ経営母体が違う。共同でやっているところも何軒かあるが、一つになってやるのはなかなか難しい。

従来の旅館がどういう客を泊めているかまずは知っていたきたいが、この地域には 5000 人弱が半永住しており、そのうち生活保護を受けている人は 約 2500 人いる。5000 人みんなをいきなりどこかへ持って行くわけにはいかない。高齢化が進んでいるので、徐々に人数は減っている。

山本(謙)氏：定住しているというのは知らなかった。

田村氏：定住するということは、その土地に必ず金を落としているということ。そういう人間を差別するのではなく、商店街の売上に貢献しているということも言えると思う。

寺井区議：台東区は旅館街があるから、生活保護を受けている人がホームレス化するのを防いでもらっているということがある。かれらはこの街が好きだから、やっぱりここにいたいと思っている。再開発が進んで、生活保護を受けられる人がゼロになって普通の街になることが夢。

田村氏：今に始まったことではなくて、戦後からの歴史がある。私たちはここでずっと商売をしているので否定されたくない。

山本(謙)氏：否定はしていない。発展してほしいと思っている。

杉山区議：現状認識をしてもらってから、今後どうするかを考えた。前回、隣の部会も同じような話をしている。浅草北部地域は広いから、ランドマークとして小包跡地をどうするかとか、地下鉄の延伸はどうするか、とか話をしほったほうが進みやすいのではないか。

山本(謙)氏：最近、朝鮮から来た人たちがそのへんの土地を買い漁っているという噂があるが。

田村氏：そんなに数はない。

小林氏：簡易旅館が変わってビジネスホテルになるのはいいが、

特殊な施設などに 変わると困る。

杉山区議：簡易旅館について現状認識をしてもらうことはとても大事だから、町会連合会の会合で今の話をしてもらってはどうか。

寺井区議：簡易旅館があるから、この地域は大阪の釜ヶ崎のようにならずすんでいる。

田村氏：そのとおりである。しかし高齢化がすすんでおり、簡易旅館も時代とともに変わらざるをえなくなっている。いきなり山谷を変えるといっても無理。周りから徐々に変えていかないと。

寺井区議：子育て支援センターが旧田中小にできる予定である。基本的に計画はできているがみなさんも意見をあげていってほしい。

杉山区議：どういふふうに小包跡地をつかいたいのか、この協議会で青写真を描いていけばよいのでは。

水島区議：今日の委員会でも話題になったが、国からこの土地を買う場合にどういふふうにつかいたいのか役所は考えなくてはいけない。この協議会で提案をだすべきだと私も思う。

寺井区議：区は公共の目的で再開発するということで交渉する。区の部課長 20 人ほどで小包跡地プロジェクトチームをつくっている。

区役所は地方の市町村に比べて、予算獲得や土地の取得などに議員をつかっていない。昔は東京都の財政が豊かだったからそれでもよかったが、今は財政難であるから議員をつかうべきだ。

水島区議：いろいろな情報を役所はもっているのだから教えてほしい。今日たまたまお持ちしたのは、平成 11 年に再開発交通網委員会で都電荒川線延伸の検討プランだが、そういう情報を教えてもらえないと話がすすまない。

田中氏：簡易旅館はどれくらいあるのか？

田村氏：170 軒くらい。この数字は台東区だけでなく荒川区も含んでいる。

田中氏：今日お配りした資料はかなり詳しく調べているので是非読んでほしい。台東区の中でも北部は特に人口が減少しており、後期高齢者が増えつつある。この協議会では先ほど話にでたような再開発や、地区計画も考えられる。短期間で実現できるものと、10～15年く

らいの中長期間と、時間軸を二つくらいに分けて考えたほうがよい。若い人たちが住みたくなる街にしたい。北部を愛する心、大切にすることをどう育てていくか。

寺井区議：伝統ある街は高齢化が進みやすい。新しいマンションがあれば若者が入ってくる。しかし、お年寄り若者ではお金の落とし方が違って、お年よりのほうが地元で落とすのではないか。若者はもちろん増やしたいが、高齢化 社会をマイナス面ばかりでみることはないと思う。

山本(謙)氏：吉野町会では高齢化が進んで、青年部が50代になってしまっている。子どもの姿が見えないので街に活気がない。

寺井区議：水島さんの町会はマンション群があるからわりと年齢層が若いのでは。

水島区議：あそこのマンションの人たちは自分の地元が浅草や上野だったりするので、越境しなくても自分の地元の学校に行けてしまう。しかし、現在は地元の石浜小に行く子どもが増えたようだ。

田中氏：国も安全安心のまちづくりをすすめている。北部が新しいまちづくりの発信をして、三世代が住みやすいまちづくり、世界から注目を浴びて視察にくるようなまちづくりをしたい。国交省もそれを求めているから、そういう計画書を出せばお金はおろる。

水島区議：伝法院通りもそうだ。

田中氏：そのとおり、あれは国から補助金が出た。

北部の拠点、コミュニケーションができる拠点がほしい。清川出張所はあるが。

寺井区議：清川出張所の建替えも検討してほしい。

田村氏：公共用地を核としてまちづくりをすすめていく。その用地を確保するために跡地をどう活用するのか具体案が必要である、ということを今回の部会のまとめとした。

第5回浅草北部まちづくり協議会 議事録

日時：平成18年6月22日(木) 午後7時より

場所：台東リバーサイドスポーツセンター 3階会議室

(出席者)

吉田会長、池田氏、小林(正)氏、田村氏、松村氏、末崎氏、和泉区議、寺井区議、

水島区議、清水区議、杉山区議、長谷川氏、田中氏、中村氏、中川氏、東城氏、

市野氏、石塚氏(深谷衆議院議員秘書)

議事経過：

大江課長：新たなメンバーの交代、追加の申し出がある。池田氏から清川町会の進藤町会長に交代したいという申し出があったがよろしいか？ →承認。

また長谷川氏から、新メンバーを新たにこの協議会に迎え入れたいという申し出を頂いた。

長谷川氏：前回、女性の声をもっと届けたいということで推薦をお願いしたところ

であるが、私のほうから東城氏と市野氏を推薦したい。よろしいか？ →承認。

小林(正)氏：この協議会には30代のお母さん方がいない。コミュニティで、毎月一回は無理だが、会の代表として交代という形でなら出られるという意見もあった。

長谷川氏：前回は部会ごとに仕切りを作って話し合ったが、今回は人数も多くないので合同で行う。

東城氏：この地域に住んでいる人から見てもこの街は魅力が少ない。魅力ある街にすればそこを訪れる人も増える。何か核となるものを作って、交通網が整備されるとよいと思う。

市野氏：まねきねこ発祥の地としてこつこつと活動してきた。皆さんと協力してこの街を変えていきたい。

大江課長より資料についての説明。

水島区議：役所にある北部に関する資料を出していただいて、その中から夢を語り、実現できることをやっていく。そういう協議会である。

杉山区議：都電の延伸についてはひとつのプランとして考えればよい。

田村氏：いろいろな情報が一番集まっているのはやはり役所である。我々としてもきちんとした情報が欲しい。情報をどんどん出してほしい。

長谷川氏：どのような情報があるのか、リストを出してもらってその中から必要だと思われるものだけをさらに出してもらおうという方法がよいと思う。

田中氏：資料は膨大な量になる。色々な調査をしているはずだがなかなかその情報が出てこない。北部で何をやっているかがすぐ分かるようなものをパワーポイント等で作

ってみてはどうか。

大江課長：リストは作成します。

長谷川氏：第1回協議会では会を立ち上げた。第2回は主として、浅草北部の文化・歴史を学んだ。実質的な論議は第3回、第4回であったと思うがよろしいか。

第1部会と第2部会の進み方が若干違っていたようだ。今日はまだ問題点の絞り込みをせずに、皆さんの意見を聞くということにしたい。7・8月は休みであるが、9月には具体的にテーマを絞っていきたくて考えている。東城さんから順に思いを語っていただきたい。

東城氏：交通網整備の話があったが、以前、銀座線の延伸という住民の希望があり署名活動もした。その夢がなぜ叶わなかったのかというと、利用する住民が足りないから、採算が合わないからだという話を聞いた。しかし街は駅というものができて発展していくものである。まずは交通網を整備していただいて、そこに核となるものを作っていただきたい。

市野氏：街の活性化のためには観光が重要である。今、外国人のお土産ナンバーワンはまねきねこである。なぜ浅草北部がまねきねこで頑張らないのか不思議であった。

小林(正)氏：コミュニティとしてはハード面よりもソフト面が重要であると考えている。コミュニティ委員会で出ている話として、小包跡地のいたずら書きがある。子供によくない。いたずら書きを無くしていくのも環境美化というまちづくりである。

松村氏：我々の業界として、サラリーマンの方も結構来ているが、南千住の方からは来ない。南千住と浅草の間は厳しい状況。インフラ整備が必要である。

寺井区議：いろいろな夢を語って作り上げていくのは我々。参考資料を読んでいただいた後に具体的な議論をしていただきたい。

池田氏：多くの問題がある中で貴重な意見が出ている。問題は多いが努力を積み重ねていくことが大切である。

水島区議：交通網、小包跡地、今戸の駐車場跡地など、区有の土地をどのように起爆剤として利用していくかというののもひとつの夢である。せっかくこのようなまちづくり協議会ができたので、区に対しても提案していけるような流れを作って欲しい。また、基本構想や都市マスタープラン以上のこの街の全体像を、この会で考えていけた

らいいと思う。

杉山区議：今までは現状認識ということで部会に分かれて議論をしてきたが、改めてこのように一緒になってしまうとまた初めに戻ったようなイメージになる。やはり今までの議論の中からテーマを絞っていったほうが夢は語りやすい。北部のまちづくりについてはどの部分もテーマになりうる。小包跡地については区としてまだ夢が描かれていない状態である。とりあえずこの協議会でその夢を語ってしまい、それを区の案にしてもいいのではないかと、前向きにテーマを絞っていった方がよい。

田中氏：各種資料を我々が整理しあって共通の認識を持てるかどうか重要。7・8月くらいまで現状認識にかけてその後の課題の抽出をしたい。

この協議会の目的は小包跡地をどうするかではない。それはそれとして考えるが、本来の進め方というのは腰をすえて、皆が集まってくるような会を設けていくべき。そのためには議事録を体系化して整理することが必要になってくる。一番の問題は交通インフラである。これは我々の生活要求である。大切なのは我々の生活要求をどのようにして計画要求にしていくか。交通インフラについてはひとつのテーマとしてじっくりと考えていきたい。

田村氏：旅館の半分くらいのお客さんは生活保護を受けている。また最近外国人旅行者、サラリーマンが増えてきた。我々としてはサラリーマンや外国人旅行者をさらに多く集客していける商売にするのが夢である。

新宿では簡易宿泊所の数がだいぶ減った。その一番の原因は旅館業より他の商売の方が儲かるからである。この浅草北部地域でも旅館業より他の商売の方が儲かるのであれば誰も旅館業はやらない。街全体が変われば旅館街も変わる。

中村氏：この地域に住んでいるからには安全に住みたいというのが原点である。この地域は防災上非常に危険な地域である。防災や安全に関することについてはおそろく国からの補助を受けやすいと思われる。

この会が発足してからずいぶん時間が経っているが、まだ話がそれほど進んでいないように思わ

れる。細かい議論に入ってもいいと思う。

末崎氏：我々の製靴業界も活性化に向けて動いている。ただ、人手がいない。製靴関連業の平均年齢は67歳くらいになっている。

学校の跡地などに技術者を置いて、そこで子育てが終わった方々などが内職をして生活収入を上げ、街の活性化に役立てる方法はないかと考えている。エスペランサなどの靴の学校があるが、

1・2年しか技術を教えない。あと2年くらいやればものになるのにもったいない。

和泉区議：同時にいろいろなことはできない。夢を持って話をしていくのも必要であるが、この清川は急いでやらないといけないことがたくさんある。今何ができるかという小包跡地の利用方法について詰めていったほうがテーマとして良いのではないかと。

清水区議：現状認識は大切である。今後の進め方としては、交通網整備、北部の観光、ホームレス問題、小包跡地の活用、新東京タワー、芝居小屋、簡易宿泊所の今後など多くの話があったが、ひとつの大きな流れの中で考えていかなくてはならない。

中川氏：皆さんが考えているまちづくりがそれぞればらばらになっている。テーマに沿ってないと意見が合わない。浅草北部をどうしていくかが一番のテーマであるが、住民として住みやすい街にしたいと私は思っている。

石塚氏：まちづくりは難しい。具体的に台東区のまちづくりについて、台東区全体が底上げしていくように皆さんで力をあわせてやっていくべきだと考えている。

長谷川氏：今日は皆さんに共通認識を持ってもらい、次回に望むというつもりで進行してきた。なかなか話が進まずにもどかしさを感じる方もいると思う。次回は我々が目指すべきもの、考えていくべきもの、こんな街にしたいという思いをワークショップのような形で行いたいと思う。

小林氏：テーマを決めないと部会に分ける意味がなくなってしまうのではないかと。

長谷川氏：ワークショップではテーマを出し合い、それに方向付けをしていきたい。

小林氏：部会に分けるのはある程度考えが固まってからのほうがいいと思う。

中川氏：無理にテーマを絞り込む必要はないのではないかと。観

光面では興味深い話があった。観光の部会だけ別に立ち上げてもいい。

田中氏：ワークショップという意味と、部会を2つに分けるという意味は違う。この場自体ワークショップである。もう具体的な議論に入って3回目である。いろいろな話や資料が出てきたが、そろそろ整理してもよいのではないかと。私が3回分の協議会の内容をまとめてくる。

第6回浅草北部まちづくり協議会 第2部会 議事録

田村氏：この部会では、小包跡地に焦点を絞りたい。

東城氏：賛成。起爆剤になると思う。若い人に住んでもらいたいから、そのためには核となり魅力がある施設が必要である。

山本氏：こうやって話をすればかきりるのではなく、錦糸町など他地区のまちづくりの成功例を見学したい。それをこの街にもあてはめられるか考えていきたい。

寺井氏：まちづくりの成功例では、川越の駄菓子、伊勢神社などがある。商売で人を引き寄せているまちづくりが全国的にみて多い。人を寄せるだけでなく、今生活している人が住みやすいまちにすることが大事。私は小包跡地にショッピングモールやアウトレットをという考えもあって、いろは会、アサヒ会に聞いてみたところ、自分たちも出店したいとのことで反対はあまりなかった。**AI 地元住民、商店へのヒアリング・アンケート調査**

山本氏：重点的に小包跡地を整備すれば、周りも自然とよくなっていくと思う。

小林氏：タワーができて墨田区には観光資源がない。

東城氏：アメ横は関東一円から人が買い物に来る。北部では、革の町であることを活かして特色のある商店街、アウトレットなどをつくりたい。

中村氏：小包跡地に絞るのかどうかまず決めませんか。それで、時間があれば他のことも話し合うということで。そもそも小包跡地とは何なのかよく分からないのだが。

寺井氏：郵政省(現総務省)のものだったが、平成14年に財務省の普通財産となった。今はゴミ収集車の車庫となっている。本来は買い取るために建物30億円、土地30億円必要だったが、土地の分だけでよくなった。ただし、「公共に資するもの」という理由でないと買えない。

深谷氏秘書：総務省から財務省に正式に所管が移るのは、今年の

11月である。2年以内に買うのかどうか決めてくださいと、今ボールを投げられている。役所にはここをどう活用するのかという考えがない。地元の人がこの協議会で話し合ってきたことが今後生きてくると思う。AI 地元まちづくり協議会としての意見

山本氏：小包跡地の活用について、署名活動をしてよいのでは。AI 公開シンポジウムの開催を

中村氏：一番理想的な形は国がお金を出すということなのか？

深谷氏秘書：今は民間からのお金を使えるような法律ができています。

台東区にもそんなにお金はない。民間活力を利用する。AI 予算の獲得＞民間資金・公債・

中村氏：土地が20億というが、台東区はそれが買えるのか？

深谷氏秘書：公債を発行すればよい。

中村氏：ゴミの話だが、台東区は焼却場を作らなくてもよいのか？

寺井氏：分別が進み、景気の悪さもあってゴミが少なくなったので、焼却場は台東区に新たに作らなくてもよくなった。

田村氏：では、この部会では小包跡地をテーマにするということで結論とする。

*****台東区都市づくり部まちづくり推進課 吉田 TEL 03-5246-1366 FAX 03-5246-1369 *** Email machi@city.taito.tokyo.jp

第6回浅草北部まちづくり協議会 第1部会 議事録

長谷川氏：今日はテーマの絞込みができるような議論をしていきたい。今年度中に大枠をつくり、平成19年度に北部のまちづくりに関する方針を出したい。

末崎氏：現在、靴業界は厳しい状態である。街が変化するスピードは速い。

長谷川氏：ひとつの産業政策の必要性がある。

市野氏：皮革の街が廃れていくのは寂しい。浅草ブランドを立ち上げてはどうか。

末崎氏：自社ブランドとしてやってはいるが流行らないのが現状。

中川氏：皮革産業の衰退は台東区の産業の衰退につながる。デパートではデパートというだけで品質の保障を感じられるため高い靴も売れる。個人では難しい。

経過メモの4番に北部地区の現状と問題点がまとめてあるが、テーマとしてはこの中からまとめて整理し

ていけばいいのではないと思う。個人的には住宅問題に絞り込んで取り組みたい。AI 皮革産業の再生、靴のブランド化へ

清水区議：産業問題、山谷のホームレス問題は議題として絞り込んでいったほうが良いと思う。

末崎氏：北部を活性化させたいなら小包跡地に産業を集約したひとつの街のようなものを作らないと活性化は難しいだろう。

市野氏：まねき猫を売りにしていきたい。

長谷川氏：文化的な政策の中にまねき猫を入れていけばよいのではないか。

中川氏：観光の中でまねき猫をどう使うかという問題であって、まねき猫にこだわり過ぎてもいけない。大きなくりの中でひとつの要素として考えていくべきである。

和泉区議：私がやりたいのは交通網整備である。交通網を整備すれば街は活性化してくる。小包跡地については、区がその活用方法について民間に発注して調査をかける予定である。

松村氏：簡易旅館については多岐にわたってくる。山谷の簡易旅館はほとんどが男性用に作られている。今後は女性用も出てくるだろう。

市野氏：新タワーには多くの人があるだろう。回遊性を良くしてほしい。

中川氏：東京タワーも六本木ヒルズも回遊性がない。観光バスで来てそのまま行ってしまうことが多い。お祭りなど、地域で人を集める何かを作っていないと人は来ない。

和泉区議：北部をどういう街にしたいかである。観光の街にするのは厳しいだろう。人が来るから街が潤うというものでもない。

中川氏：交通インフラを考えながら、人が来る街を考えなくてはならない。

和泉区議：交通網を整備して、やりたいのは空き店舗をなくすことである。

中川氏：産業がないと雇用もない。夜間人口だけでなく昼間人口を増やさないといけない。地域に住んでいる人たちが動かないといけない。それがまちづくりの基本となる。

和泉区議：イベントを誘致するより、用途制限などを考えて街を誘導していくのがまちづくり協議会の役割である。

長谷川氏：人口密度で言うと、台東区の北側は密度が高い。そういう点から考えると自然と住宅地政策に方向付けができる。

ただ、住宅地にするための交通政策がないといけない。住宅政策を進めることで交通政策も一体となってくる。それらが進めば文化政策も進むだろう。交通政策抜きにはまちづくりは進められないのではないか。まとめると、全体の論理の方向性としては、ハード面とソフト面というくりに分けられるように思われる。

第8回浅草北部まちづくり協議会 議事録

日本堤消防署 伊藤警防課長より配布資料の説明。

長谷川氏:本日は交通網の整備について議事を進める。議事終了後に次回のテーマと日程を決めていく。

北部活性化のために交通網をどう整備していったらよいか、KJ法を用いて皆さんで拾い出して挙げていただきたい。そして出たテーマに対して様々なアプローチの方法を探していきたい。

田中氏:前回はKJ法を用いたという話は聞いているが、前回議論をまとめた資料はどう使っていくのか。議論がどう構築されてまとめられていくのかを聞きたい。

長谷川氏:それは皆さんと一緒に決めていくものであるが、とりあえずは議論を深めて、その中から大きなくりを作っていくことが大切であると考えている。

田中氏:区のホームページには小片跡地活用についての基礎調査実施に伴う調査会社の募集が出ている。区の中でどういものが動いているのかを説明していただいた中でこの協議会がどのように関わっていくかということも皆さんと話し合っていきたい。

樫尾部長:確かに調査会社の募集をしたが、この浅草北部まちづくり協議会の意見を聴きながらとなっている。

末崎氏:地下鉄の延伸は荒川区も含めて考えるべきである。

田村氏:統計を取ってみたが、宿泊者の69%はJRの南千住駅から来ている。23%はメトロの南千住駅から来ている。大部分が南千住から来ているということになる。ただ、南千住から歩いてくるのに道が分かりづらい。

東城氏:利用客が少ないから北部には地下鉄が引けないという話を聞いた。

中川氏:地下鉄を作るメリットがメトロにはないということ。メリットをこちらから提案しないといけない。きちんと事前に準備をして提案することが必要である。

樫尾部長:地下鉄は1kmあたり300億円かかる。1kmあたり2万人の乗客があれば採算が取れる。

田中氏:北部の人口はだいぶ減った。

中川氏:北部から近い駅は南千住か三ノ輪、浅草は遠い。利便性の面から言うと、南千住や三ノ輪のことを議論に入れないといけない。

長谷川氏:現状から言ったらまずできないというのが妥当な答えである。だがそういうものなのだろうか。地下鉄ができることによって人が集まってくる、住宅需要が高まってくる。可能性は広がるだろう。

田中氏:思いを文章にするなどして伝えなくてはならない。舎人線は20年かかってやっとできた。時間がかかるものである。

長谷川氏:いずれにせよ交通基盤を強化したいというのが皆さん共通の考えである。メインの交通手段としてはやはり線路がほしいというのがかなり強いと思われる。

中川氏:観光を考えたときに、浅草を含めて観光客が来やすいような交通整備が必要である。生活の利便性と観光も含めて全体的な交通網整備が大切である。

自転車の走行路線も確保してほしい。パーキングメーターがあると駐車車両のため自転車が走りにくい。自転車の走行車線を作ってもらいたい。川崎駅前を参考にしていても良いと思われる。

進藤氏:法律上、本来自転車は歩道を走れない。車道に自転車の通行帯を作らないといけない。

田中氏:道路の位置付けも変わってきている。防災面もあるが、歩行人や自転車にやさしい道路へという流れがある。北部では自転車も新しい交通体系として考えていきたいという議論していくことも必要である。

中川氏:分科会に分かれていったほうがいいのではないかと。議論のまとめを次につなげるため、どこかで細かく議論を続けていかなくてはならない。細かい話し合いの場は分科会でやり、それを発表するのが全体会というようにしていくべきではないか。

長谷川氏:では中川氏に分科会を一つ立ち上げていただく。

今回は懇親会にするという意見もあるので詳細は後日連絡させていただく。

以上

第9回浅草北部まちづくり協議会 議事録

平成 18 年 12 月 21 日

18:30~

長谷川氏:今回は観光開発の観点から浅草北部のまちおこしを考えていきたいと思う。参考資料としてお手元に「根岸界限ぶらりマップ」を配布してある。一週間ほど前に景観シンポジウムが生涯学習センターで開かれたのだが、そこで配布されていたのを見つけて参考にしたいと思い頂いてきた。我々もこれを参考に更に肉付けしていいものができるのではないだろうか。

まずは観光開発の種地になるようなものを拾い上げていただきたい。今回もポストイットに思いついたことを書いていただきたい。神社・仏閣もあるしもの作りの拠点もある。他にグルメという視点からの観光開発も考えられる。とりあえず意見を挙げていただいて後日まとめたものを資料として出そうと考えている。

大江課長より配布資料の説明。

長谷川氏:将来的にはテーマごとにプロジェクトチームとしてやっていければいいと考えている。具体化するにはそれが一番早いと思われる。

大江課長:今後、区議会議員の方々には参与として、オブザーバーのような立場で参加していただくと考えている。

北部に住んでいる一般の人からの意見も聞いたほうがよい。このような協議会という場には出て来難いようである。もう少し気軽に参加できるような場を設ける必要があるかもしれない。

次回の全体会は1月18日(木)を予定している。

また新たに観光部会を開くということで1月22日(月)を予定している。

詳しくは後日、開催通知でお知らせする。

以上

第10回浅草北部まちづくり協議会 議事録

日本堤消防署 伊藤警防課長より配布資料の説明。

水島区議:議会で耐震強度について質問した。阪神大震災では建物倒壊による圧死が多かった。区で補助金を出せないのか検討してほしい。広報をしてほしい。

中川:台東区内で清川地区は危ないところになっている。

小林:消防団に若い人を入れたい。

東城:ジャッキの使い方を教えていったほうがよい。

伊藤:防災訓練を年に1回やればいいという感じになっている。

小林:実際に器具を使えるようにしたほうがよい。

中川:AEDも使えるようになったほうがよい。

伊藤:限られた人が使えるのではなく、みんなが使えるようになるとうい。

佐藤:凶悪犯罪は減少している。戦後復興の頃に比べると労務者は半減した。玉姫公園やいろは会商店街にいる路上生活者は多いときで300人、寒くなると減ってくるので180人くらいである。山谷地区交番は特殊な場所で、私服警官も配置している。ホームレス対策として、路上で寝ている人に声かけしている。また、外国人犯罪者に対しても、路上で頻繁に声かけをしたり、パスポートチェックをしたので犯罪は減少した。

中川:ひったくりなどの軽犯罪は増えているのか?

佐藤:ひったくりは台東区全体では横ばい、北部地域では減少している。

伊藤:救急車の出動件数は減っているが、本当に必要な人が使えるように適正利用を呼びかけている。

小林:有料にすると貧乏人は救急車を呼べなくなってしまう。

中川:水害について、スーパー堤防の計画がすすめられている。

田中:都の防災都市づくり策定計画がある。火災が起きたときにどう延焼をくいとめるか。

長谷川:現状に関する認識は共有できたと思う。安心・安全なまちづくりを阻害しているものは何か?そしてそれを解決するタネは何か、いつものようにポストイットに書いてまとめたと思う。・・・別紙参照

長谷川:これからの進め方について、今までまとめたものから分科会を立ち上げ、ものによってはメンバーを増やしてもよいと思う。

小林:賛成。継続してこられる人がいたら、もっと誘うべき。

長谷川:協議会メンバーに、最低1つの分科会には参加してもらいたいが、ある程度の回数はこられることを条件にしたほうがよいと思う。

田中:分科会は4つのテーマにしぼってきたが、もう少し出された意見を集約して、今年度のとりまとめをしないと先に進めない。

中川:部会のメンバーは、もっと枠を広げて有識者を入れるなどしても

よいのでは。

長谷川: 次回は2月15日(木)7時～、テーマは「地場産業・ものづくり」そして、その次は3月29日(木)7時～で、4月以降の分科会の立ち上げ等、協議会の進め方を話し合うこととする。以上

第11回浅草北部まちづくり協議会 議事要旨

日 時: 平成19年2月15日(木)午後7時～9時

場 所: リバーサイドスポーツセンター会議室

出席者: 小林、田村、田中、中川、當麻、東城、市野、城北福祉(工藤)、消防署

司会・進行: 中川

(1) 前回議事録の確認・・・訂正が無ければこれで確定とする。(区・大江課長)

(2) 協議会の経過資料について説明(田中)

今までの話し合いで、「小包集中局跡地」、「交通網整備」、「観光開発」、「安心・安全」、「地場産業・ものづくり」の5つのテーマに示ばられた。

(3) 簡易宿泊業組合で作ったマップの紹介(田村)

- ・インターネットにより外国人、日本人ビジネスマン客が増えている。
- ・85%くらいの客は南千住駅から来るので、駅の近くに地図(旅館への案内板)を作って欲しい。南千住駅には東京都の補助を受けて、荒川区が作ってくれることになった。三ノ輪駅にも台東区が作って欲しい。

(4) 地場産業・ものづくりについて

- ・靴工場は景気が悪く、劣悪な環境で働いている。皮革産業をまちおこしの目玉にするため、小さい工場をビルに集約したらどうか。作る過程を見学できるようにガラス張りにするとか。
- ・皮革産業の集約施設、流通基地を小包集中局跡地に作ったらどうか。
- ・今あるエスペランサ(靴の学校)はデザイン重視で、2年で終わってしまうから高度な技術が身につかない。継続して高度な技術を身につける施設が必要。
- ・皮革産業資料館をもっと活用したらどうか。
- ・大量生産をしていた反省から、手作りでよいものを作りたいという思いが靴業界でもあるようだ。
- ・余った皮を女性のアクセサリにするとか、体験教室を開くなどしたらどうか。

- ・皮革産業をただ集約するだけではなく、受注できる体制を整えることは必要。靴屋で伸びたところはブランドの下請けをやっているの、デザイナーに食い込むことも方法の一つである。
- ・中国で作る安い靴との差別化を図る必要がある。「芸術品」的なものづくり、あるいは、お年寄りに優しい靴など。
- ・着物と草履のように、靴とバックはセットで売ったほうがよい。
- ・1つの会社ではなくて、地域ブランドを立ち上げることが必要。
- ・人目がつくところにアンテナショップを作ったらどうか。
- ・オーダーメイドの靴を、インターネットなど活用して売り出したらどうか。
- ・小包跡地などで、芸能人の履く靴のショールーム、芸能人の足型を見せる。
- ・いろは商店街に若手デザイナー育成塾をつくる。
- ・靴のめぐみ市だけでなく、北部で小売ももったほうがよい。
- ・旅館に来る外国人に、皮革産業を見てもらう工夫をしたほうがよい。

まとめ

北部の地場産業としては、第1に皮革産業、そして商店街、簡易宿泊所の3つがあげられる。今日は靴業界の人が出席していないので、またあらためてその方たちの意見を聞いて考えたい。

(5) 協議会のメンバーについて

- ・だんだん協議会への出席者が減っている。会の代表者は忙しいから、誰か別の人を推薦してもらったほうがよい。最終的な結論を出すときに、代表者には来てもらえばよいのでは。
- ・きちんと参加してくれる熱心な人にメンバーになってもらったほうがよい。

(6) 次回の協議会について

- ・平成19年3月29日(木)午後7時～、産業研修センターの大教室にて

・4月以降の協議会の進め方について

メンバー再編成、分科会の立ち上げ、コンサル(専門家)派遣の検討など